

かなめ流通G ホットライン

第2回

ドライクリーニング

前回の「かなめ流通グループ ホットライン」はいかがでしたでしょうか。単にウェットクリーニングを訴求するだけでは、なかなか家庭洗濯との差別化は図れません。クリーニング店でしかできない洗いのものを、もっと前面に押し出すことが、ウェットをやる上でも今後必要となってくるのではないのでしょうか。

さて、第2回となる今回は「ドライクリーニング」をテーマとしました。「ドライをする上でもっとも必要となってくるのはやはり溶剤管理」ということで、ドライクリーニングの中でも「溶剤管理」に重きをおいて今回の話し合いを行いました。

ドライが普及したワケ

現在のホームクリーニングは、繊維の多様化により家庭洗濯では洗えない衣類がドライ溶剤を用いて洗えるようになったのが始まりであり、その普及とともに家庭洗濯との差別化を確実なものにした。



しかし昨今は家庭用ドライ洗剤の普及等にもない、クリーニング店を利用する回数が減っている。

洗浄時間の見直し

一般的に、汚れ落ちの度合いをグラフにすると、これ以上やっても変わらないという地点が、石油は15分、パークは8分となっている(=下グラフ)。短時間に設定している業者が多いと聞かすが、短すぎると本来の汚れが落ちていない。



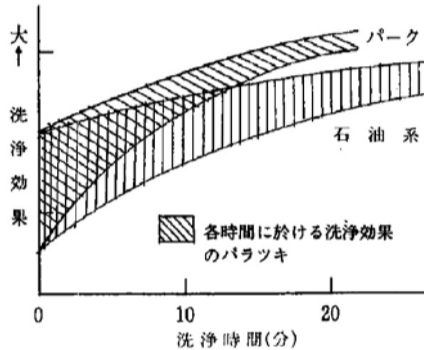
同じ機械と溶剤を使っているA店とB店で、A店では洗浄後のシミ抜きが多いがB店ではほとんど出ていないということがあった。この両店で違ったのは洗浄時間だけ。ちゃんと洗浄時間を守って、それによってシミ抜きが減るのであれば、それは無駄な時間ではない。

「肩貼り」でドライの周知を

家庭でできない洗いだからこそ、消費者はドライクリーニングを知らない。お客さんにとって一番分かりにくいところだし、クリーニング店が一番アピールしていくところだと思う。



かなめ流通グループで今年5月から発売している「肩貼りニュースレター」でも、初回に続き、2013年3月分(=右写真)でもう一度ドライクリーニングについて周知を図る。それほど、家庭洗濯とは違うという事を消費者の方に理解してもらいたい。



CHECK POINT①

ベースタンクの掃除をしていますか？

ヘドロは絶対溜まるので、最低1年に一回はベースタンクの掃除をしてほしい。業者や我々機材商に相談してもらえば対応できる。

ヘドロの大半は水と嫌気性菌(空気を嫌う細菌)。ドライ洗浄後には余分な水分はタンク下に沈む。洗浄を繰り返しているところの水分が砂埃と共にヘドロとして堆積し、やがてこの嫌気性菌が繁殖して腐敗臭を発生し、衣類にもその臭いが付着してしまう。

毎月必ずベースタンクの中をかき回した液をとって、それを洗剤メーカーに出し、酸価値などを調べてもらうことで溶剤管理をしている工場がある反面、そういうことをしない工場も。

あなたの溶剤

大丈夫ですか!?

CHECK POINT②

フィルターの交換基準は何ですか？

フィルター交換の基準は圧だけではない。ポンプ能力がなければ圧はあがらないから、「圧があがっていない=大丈夫」という考え方は間違い。

圧があがって循環しないから変えましょうというのが本来のはず。循環するというのはドラム内の汚れをフィルター内に持ち出す為の量。循環が悪いと逆汚染もする。

流量の問題であるから、メーカーに問い合わせるなどして、自分のところの機械は何秒で洗濯槽の方にオーバーフローすればよいのかを知っておく必要がある。それより落ちていたら、「ポンプ能力が低下している」「フィルター圧が上昇している」「フィルターの濾過率が落ちている」という判断ができる。

CHECK POINT③

酸価測定をしていますか？

溶剤は酸価測定液で定期的に調べるのが一番好ましい。酸価値が高いと逆汚染や輪ジミ、ドライ臭(酸化臭)の原因となる。

何回測定しても酸価の高いところは、フィルターに酸価をとる成分(活性炭・脱酸剤等)を増やすとか、新液を追加するなど対策をしないと改善されない。

蒸留をしていても、完全な新液に変わるわけではなく、脂肪酸などを一緒に蒸留していることもあるため、適度に新液を追加する必要がある。

かなめ会員のオススメ



◀(株)匠システムの溶剤浄化機「Xクリーン」。簡単に溶剤管理ができ、クリーニングコストも削減できる。実証実験では酸価値は常に0.2程度で推移するといった結果が出ているという。



▶(株)テイクネットの石油ドライ機用ドライ溶剤消臭剤「ドライで爽快」。簡単に取り扱え、かつ低コストで長期間効果が持続。酸価の低減やドライ臭の解決に効果的という。

圧が上がらない機械!?

ある業者で以前、いつまでたっても圧が上がらない機械があった。おかしいと思って中を見えるようにして調べてみたところ、ポンプ能力がなく、ふ〜っと浮いているような状態で、ホコリも浮いていた。当然この状態ではフィルター圧もあがらない。

女性は臭いに敏感!?

ある女性が、5軒クリーニング店を回って、出した衣類に臭い(ドライ臭)がついて返ってこなかった店はたった1軒のみだったとか。

それほどの割合で、私たちが感じるより女性の方は臭いに敏感だということ。

溶剤管理の重要性認識を

ドライは一般家庭洗濯と区別するために大事なものです。だから余計に臭いをつけて返してしまったりすると、プラスのものを使ってマイナスで返すということになり、それにお客さんが反応してしまいます。ですから溶剤管理が重要なのです!! 溶剤管理は、

「ベースタンクの掃除」「流量の把握」「酸価測定」この3点は特に重要です。もちろん透過率(色相)も重要な判断基準のひとつですが、透過率だけでなく、上記のような溶剤管理をすれば、もっと精度の高い溶剤管理ができ、品質も向上するのではないのでしょうか? まずは地元の機材商にご相談下さい。

お客さんの大切な衣類を洗ってキレイにするために、もっと溶剤管理を徹底してやりましょう!!

次回:クリーニングの経営を考える PART 1